

2019年4月の本格導入まであとわずか！！

本格導入に備え、必須知識や考え方、企業の取組の方向性・課題・解決策などを解説！

費用対効果評価(HTA)の基礎と実践

- ◆日時: 2018年10月23日(火) 12:30~16:30
- ◆会場: 商工情報センター 9F 第2研修室
- ◆聴講料: 1名につき49,980円(税込、資料付)——

⇒1名につき32,400円(税込、資料付き)
2名同時申し込みの場合、1名につき21,600円(税込)

講師からの紹介割引について

本パンフレットは講師用のパンフレットです。このパンフレットでセミナーをお申込みいただくと、講師からのご紹介により左記のとおり受講料が割引になります。なお他の割引との併用はできません。

●講師: クレコンメディカルアセスメント(株) 取締役最高業務責任者(COO) 医学博士 小林慎 氏

【ご専門】 薬剤経済学、医療経済学、統計解析

【ご略歴】 ・国際医薬経済・アウトカム研究学会(ISPOR) 日本部会 理事・事務局長
・日本経済大学大学院ファーマシー・マネジメント研究所 特任教授
・東海病院管理学研究会世話人

・DPCマネジメント研究会 理事

・多摩大学医療・介護ソリューション研究所 シニアフェロー

2016年4月から開始された費用対効果評価の試行的導入は、2019年4月の本格導入に向けて中経協で活発な議論が行われています。製薬・医療機器企業にとって、今後は費用対効果評価の知識が必須のものになることは間違いありません。本講演では、費用対効果評価の基本的な用語や考え方から、これまでの試行的導入の経緯と今後の見通し、企業における取組の方向性・課題・解決のアプローチなど、費用対効果評価の本格導入に向けて企業が検討すべきテーマを幅広く網羅します。

1. 費用対効果評価の基本的考え方

- (ア) 医療の費用対効果とは？
- (イ) 費用対効果と医療技術評価(HTA)
- (ウ) ICERとQALY
- (エ) モデルと感度分析

2. 費用対効果評価～試行的導入から本格導入へ

- (ア) 試行的導入の概要
 - (1) 歴史的経緯
 - (2) 選定基準
 - (3) 分析開始からアプレーザルまでのフロー
- (イ) 分析ガイドライン
 - (1) 各項目の基本的考え方
 - (2) 実務における重要ポイント

(ウ) ICERに基づく価格調整の方法

- (1) ICERの閾値と価格調整方法
- (2) 複数の適応症がある場合の計算方法
- (3) 倫理的、社会的影響等に関する観点とは
- (エ) 2019年、2020年・・・未来予想図は？

3. 製薬・医療機器企業の取組のために

- (ア) 「価値に見合った価格」の主張
～高価格獲得のために費用対効果をどのように使うべきか？
- (イ) オーフアンドラッグの評価
- (ウ) 医療機器の評価
- (エ) プロモーションにおける費用対効果評価の利用可能性
- (オ) 開発プロセス/プロダクトライフサイクルへの導入
- (カ) 人材育成と体制作り
- (キ) その他 【質疑応答・名刺交換】

(講師紹介割引)『費用対効果評価』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送

● セミナーの受講申し込みについて ●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして受講券、請求書、会場の地図をお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>